

様式 I

「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」  
事業実施報告書

【学校名】井手町立泉ヶ丘中学校

【全校児童・生徒数】 154 名

【テーマ】 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ V

※当てはまるものに○・複数可

- |     |                                |
|-----|--------------------------------|
| I   | スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成              |
| II  | 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成            |
| III | スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画  |
| IV  | オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信 |
| V   | 国際理解教育の推進                      |

【実践研究タイトル】

「スポーツごころ」（「よし!」「さあ!」「やってみよう!」というような前向きな気持ち）を育てる。

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

1年男子33名、女子24名、計57名 2年男子33名、女子23名、計56名  
3年男子24名、女子17名、計41名

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値 ※当てはまるものに○・複数可	友情（○）	卓越（ ）	尊重（○）
	勇気（○）	決断力（ ）	
	平等（ ）	鼓舞（ ）	
<p>1 長距離、持久走を疲れないでラクに速く走るコツを学ぶ。</p> <p>2 様々な動きを反復しながら、楽しく基礎体力の向上を目指す。</p>			

【種類】※当てはまるものに○・複数可、（ ）には具体名を記入

- ・各教科（ 保健体育 ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動  
・部活動（ ） ・その他（ ）

【実践内容等】

（実践内容）

1 集合・あいさつ・全体への説明

ゲストティーチャー（比護信子先生）

世界陸上アテネ大会マラソン団体 金メダリスト

東京国際女子マラソン 優勝 等

2 ウォーミングアップ

（1） ライン鬼ごっこ、UFO鬼ごっこ

（2） 動き作り（腕振り・もも上げ）〈ペットボトル、ミニコーン利用〉

（3） コアトレーニング（3種目）



### 3 5分間走×2（ペア活動）



### 4 ストレッチ運動

### 5 まとめ・質疑応答

（実践上の工夫点、留意点等）

- ・ウォーミングアップやトレーニングの中に遊びの要素を取り入れて、生徒が楽しく運動できるようにする。
- ・長距離走がただしんどいものにならないように、生徒それぞれに目標を立てさせて、自分のペースや感覚を大切にさせる。

（成果）

- ・持久走の導入として実施していただいた授業であった。例年ならば意欲に差が見られやすい单元であるが、国際大会レベルの選手に実際に指導していただけることは生徒のモチベーションアップに効果的であった。
- ・競うのではなく、自分のペースで走らせることで固まって集団で走ることなく、それぞれのペースを意識することができた。
- ・校内マラソン大会では、それぞれが決めた目標に向かって時間内に全員が完走することができた。

#### 【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

実際に国際大会レベルの選手から指導が受けられる機会は生徒にとって貴重であると感じた。また、スポーツの素晴らしさや目標に向かって努力することの大切さ、何事にも自信・希望を持って積極的にチャレンジすることの大切さを教えていただき、生徒からも前向きな姿勢が見て取れた。

今回、実施していただいた持久走の授業で、具体的な課題を挙げると、距離に応じた自分のペースを理解することが難しく感じる生徒がいたことである。現場の教員が今回教えていただいたことを継続的に指導していくことで生徒にも浸透していくと思われるが、講師の先生と教員との、その種目の力量差もあり、知識的、感覚的な部分で教員が理解しきれていない点があった。自信を持って生徒に指導するためにも教員自身の研修も必要である。

また、单元が変わったときに今回教えていただいたようなスポーツに取り組む姿勢を継続させることが大切であると感じた。

様式 I

# 「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】 井手町立泉ヶ丘中学校

【全校児童・生徒数】 154名

【テーマ】 I II III IV V

【実践研究タイトル】

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

我が国やオーストラリア姉妹校の文化理解

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

1年 男子33名、女子24名 計57名      2年 男子33名、女子23名 計56名  
3年 男子24名、女子17名 計41名

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値

※当てはまるものに○・複数可

友情（○） 卓越（○） 尊重（○）

勇気（ ） 決断力（ ）

平等（ ） 鼓舞（ ）

※目的・ねらいを記入してください

泉ヶ丘中学校国際交流・海外派遣事業を通して、スポーツ・文化についての理解を深めるとともに、おもてなしの心を育成する。

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可、（ ）には具体名を記入

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・部活動（ ○ ） ・その他（ ）

【実践内容等】

## 1 クリケット、ネットボールでの交流



小学校でもクリケットを実施  
（用具は、日本クリケット協会より寄贈）

## 2 能楽鑑賞会での交流



## 3 茶道体験を通じた交流





#### 4 部活動を通じた交流



#### 5 町内小学校との交流



#### 6 町民運動会への参加・交流



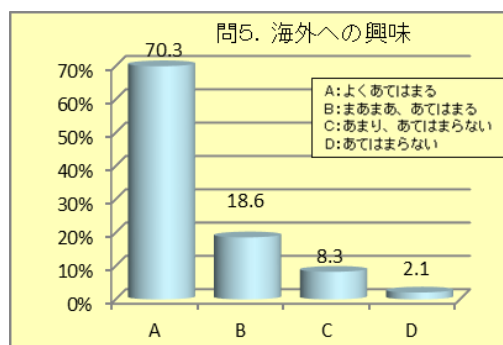
（実践上の工夫点、留意点等）

本町の事業である「泉ヶ丘中学校国際交流・海外派遣事業」での姉妹校留学生受け入れ期間を中心に取組んだ。中学生どうしの交流だけでなく、小学生や地域住民とも交流できるよう意識した。

（成果）

右のグラフからも分かるように、ほとんどの生徒が海外のスポーツや文化に興味を示した。

また、日本の文化の紹介にも意欲的で、おもてなしの心をもって留学生を受け入れることができた。



#### 【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題等を記入してください

オリンピック・パラリンピック教育の視点を明確にし、今後も継続していきたい。

# 「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】 井手町立井手小学校・多賀小学校  
・泉ヶ丘中学校

【全校児童・生徒数】 井手小 ; 222名  
多賀小 ; 99名  
泉ヶ丘中 ; 154名

- |     |                                |
|-----|--------------------------------|
| I   | スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成              |
| II  | 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成            |
| III | スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画  |
| IV  | オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信 |
| V   | 国際理解教育の推進                      |

【テーマ】 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ

【実践研究タイトル】

オリンピック・パラリンピック知恵袋  
オリンピック・パラリンピック種目との出会い

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

井手小学校；222名 多賀小学校；99名 泉ヶ丘中学校；154名  
全校児童生徒・総計475名

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値 ※当てはまるものに○・複数可	友情（ ）	卓越（○）	尊重（○）
	勇気（○）	決断力（ ）	
	平等（○）	鼓舞（○）	

オリンピック・パラリンピックに関する掲示物を通じて、スポーツへの関心を高め、自ら進んでスポーツに親しみ、主体的に取り組む意識を育てるとともに、障害者スポーツの理解へつなげる。

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可、（ ）には具体名を記入

- ・各教科（体育） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動  
・部活動（ ） ・その他（オリンピック・パラリンピック掲示版）

【実践内容等】

（実践内容）

## 1 オリ・パラ知恵袋

オリンピック・パラリンピックの資料や情報を共有するための掲示板を設置。  
メダルの種類と成分 招致活動とパラ種目



オリンピックの変遷とロゴマーク



リオ出場選手・開催国



世界の国々について



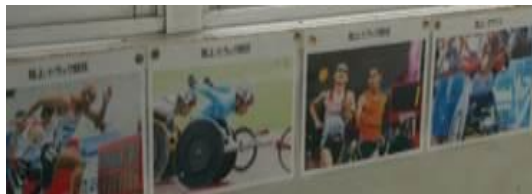
東京オリンピックの様子



## 2 パラリンピック種目との出会い

### (1) 掲示板の活用

パラリンピック発祥の歴史・競技種目



### (2) 体育科等でのパラリンピック種目体験

#### ア ボッチャの体験

学校や教育委員会・町スポーツ推進委員等で南山城支援学校での講習会に参加した。

京都府立心身障害者福祉センターからボッチャの道具を借用し、1月末より体験授業を実施した。



#### イ シットティングバレーボールの体験

プレルボール用ネットを利用し、体育の導入等でシットティングバレーボールを体験させた。

2月・3月も実施予定



#### ウ ブラインドサッカーの体験

2月・3月で実施予定

(実践上の工夫点、留意点等)

#### (1) オリ・パラ知恵袋

ア 掲示板でみえる化を図り情報共有を図った。

イ クイズも取り入れ、興味関心を高めた。

#### (2) パラリンピック種目との出会い

ア 教材の準備や購入の関係で、年間指導計画を入れ替えながら、年度内で体験できるように工夫した。

(成果)

(1) オリンピック・パラリンピックの歴史についての学びを深めることができた。

(2) 掲示することで、オリンピック・パラリンピックについての興味関心を高めることができた。

(3) パラリンピック種目は、実際に経験することで、認知や関心がより高まった。来年度以降、様々な人々との交流に発展させていきたい。

(4) ボッチャの道具を京都府立心身障害者福祉センターからお借りすることができた。他のパラリンピック種目・障がい者スポーツについても、交流の拠点としても期待でき、来年度以降、充実させていきたい。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

掲示物の内容を工夫することで、児童の興味関心を高めることができたが、より効果的な物にするために、オリンピック・パラリンピックの各種目のルール・道具等についても掲示し、学級指導・体育指導とリンクさせていく必要がある。

また、オリパラ教育の視点を踏まえた体育科の年間指導計画を作成する必要がある。